



# 早稲田大学IPS・北九州コンソーシアムについて

## 1 背景

早稲田大学大学院情報生産システム研究科（IPS）は、ものづくりと電子情報技術の融合をテーマに、产学連携とグローバル化を強力に推し進めてきました。一方で、北九州にはものづくりの文化が脈々と受け継がれており、環境にも配慮した今後の産業を考える上で、多くの生きた教材を見出すことができます。おりしもIndustrie 4.0という言葉に代表される産業の変革は、世界的な波として日本にも押し寄せてきていますが、従来から着実に培われてきた日本のものづくり文化も、これへの対応を迫られています。北九州という場で、产学連携とグローバル化の視点から、産業の方向性を探るために連携体制を設けることには、大きな意味があります。また、教育研究面からみても、北九州には極めて実践的な人材育成教育、地域や産業と一体となった教育研究活動を実施するために十分なポテンシャルを有しています。

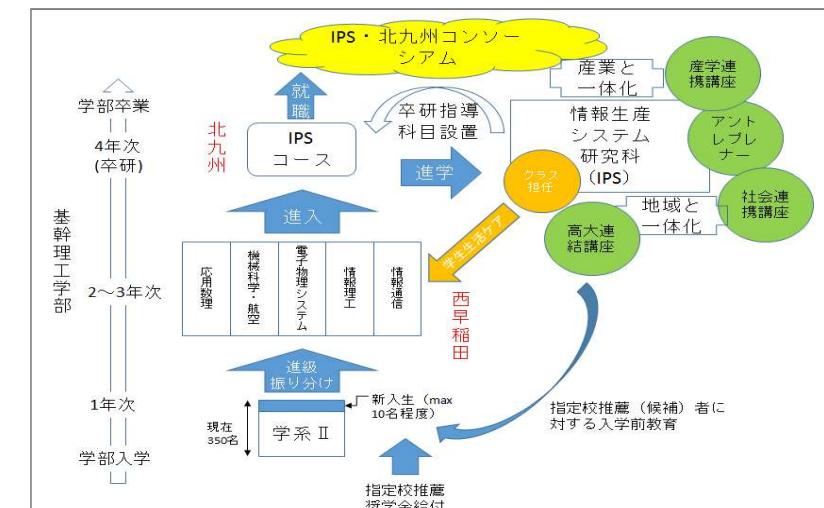
以上に鑑み、多方面から今後の我国およびアジア諸国発展に大きく寄与するために、コンソーシアムを設立します。

## 2 概要

- IPSと各企業とが1:1で結ばれた関係でなく、**企業どうしも結ばれた**真のコンソーシアムです。
- 通常の共同研究、委託研究だけでなく、コンソーシアム内で常にいくつかの研究開発連携プロジェクトが実施されているような体制を作ります。
- 参加メンバによる**产学連携教員就任、研究スペース保有**を可能とします。これにより、学生は実学を学び、一方で企業は学生をよく知ることができ、教育にも深く関与します。このことは就職にも良い影響を及ぼし、学生の地元企業への就職を促進します。
- コンソーシアム内での情報共有、外への情報発信を積極的に行い、北九州が革新的なものづくり拠点となるための原動力となります。
- 早稲田大学が計画・実施する、地域および産業と一体化した教育研究活動の大きな核となります。

## 3 効果

- 大学の研究窓口の明確化と、参加メンバ間コーディネートの充実。
- 产学連携教員を中心とした、产学連携講座、アントレプレナー教育の実施。自治体をも巻き込んで社会連携講座等も実現可能となる。柔軟で新しい教育の実施。
- 学生と産業界間での深い相互理解を実現。**
- 企業にとっては、大学力を利用した新たな開発メソッド発見のチャンス。**
- コンソーシアムを通しての啓蒙普及（とくに革新的ものづくりに関して、コンソーシアム内外での情報創出・共有）
- 地方→東京→地方と学生が移動しながら学び、就職するための求心力を生み出します。**

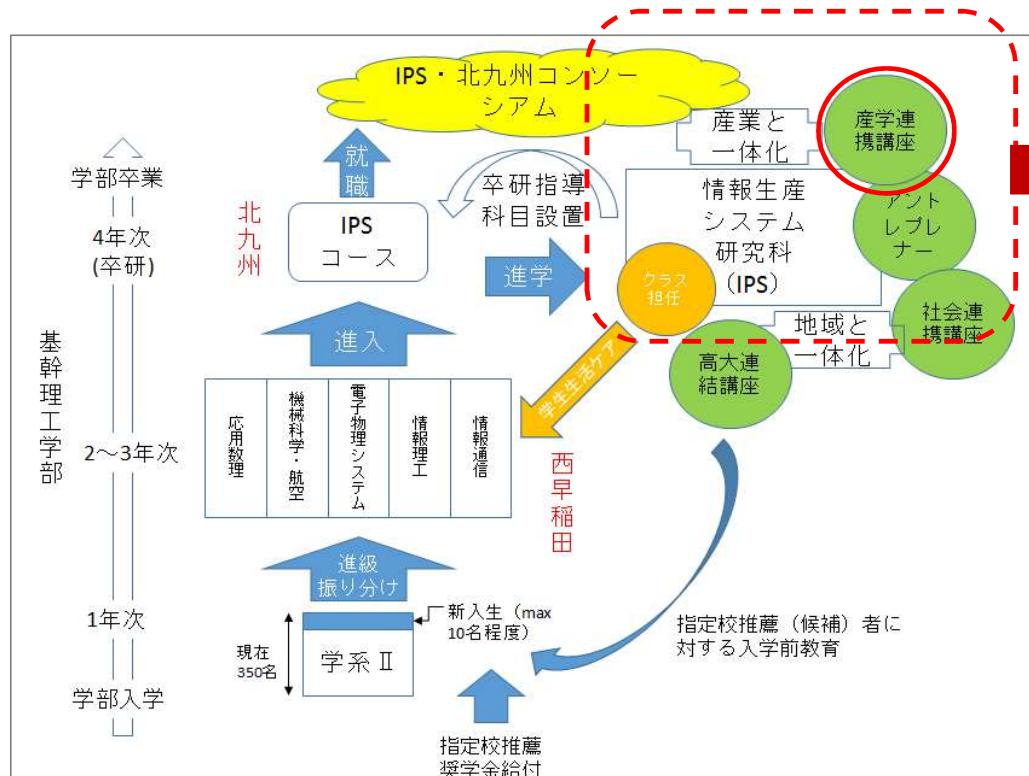


※ 基幹理工学部と情報生産システム研究科との連携入試・教育プログラム（コンソーシアム、高大連絡会議）の概念図

<https://www.waseda.jp/top/news/47859>

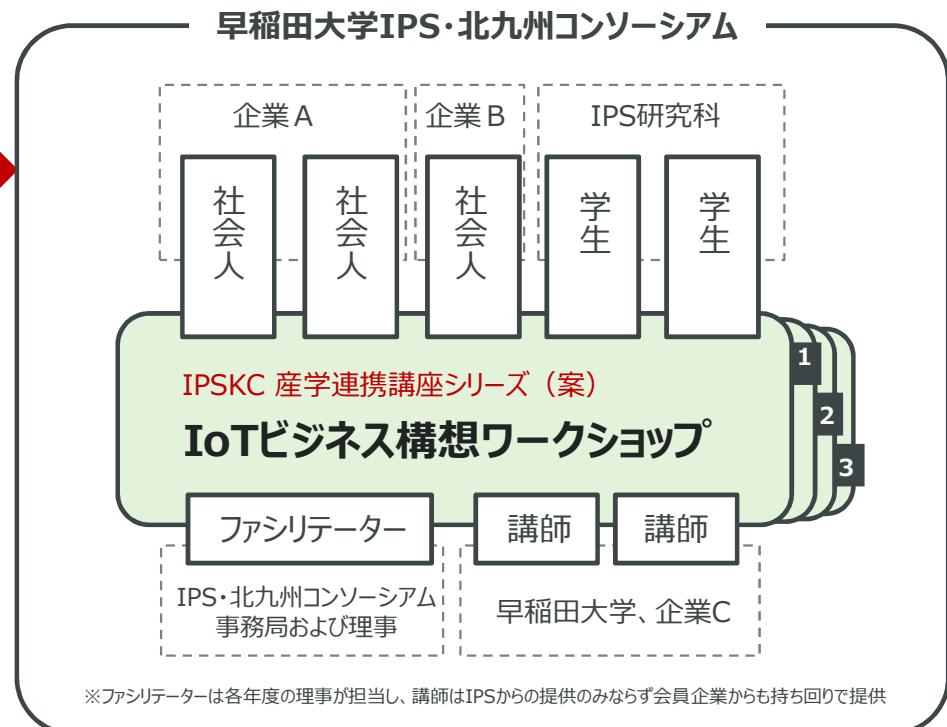
## IPSKC: 産学連携講座（活動の例） 「IoTビジネス構想ワークショップ」

当コンソーシアムの活動を具体的に推進するため、  
北部九州地域の会員企業や起業を目指す学生向けに、  
IPSKC産学連携講座を企画/開発します



基幹理工学部と情報生産システム研究科との連携入試・教育プログラム（コンソーシアム、高大連絡会議）の概念図

<https://www.waseda.jp/top/news/47859>



### ■ IPSKC 産学連携講座：3つのねらい

- IPSKC 講師が提供するICT経営講座を会員企業に提供する学びの場
- 会員企業同士でビジネス交流や協業のきっかけをつくる場
- IPSKC 学生と地元企業の社会人とが協働し新産業を共創する場